

Ref. 3

特許庁長官 特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

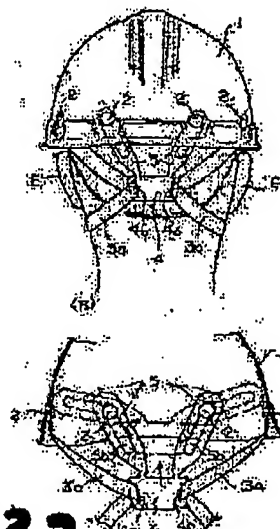
特許第 10-88414 号

特許第 10-88414 号

【要約】 特許第 10-88414 号

【発明の要約】 特許第 10-88414 号

【発明の要約】 特許第 10-88414 号



Document 32

(2)

時間 10:08:41.4

【発明の要約】

【請求項1】 ヘルメットの左右のあごひもを各々調整するための開口を左右に形成したあごひも用後部掛け具本体から成ることを特徴とするあごひも用後部掛け具。

【請求項2】 あごひもを差し込みて上記あごひも開口に調整するための差込用切込みを、上記あごひも用後部掛け具本体に形成したことを特徴とする請求項1に記載のあごひも用後部掛け具。

【請求項3】 ヘルメットの後部内側に取り付けられるための2本のスライด์片または保持片を、上記あごひも用後部掛け具本体に一体的に設けたことを特徴とする請求項1または2に記載のあごひも用後部掛け具。

【請求項4】 上記スライด์片に嵌合を形成したことを特徴とする請求項3に記載のあごひも用後部掛け具。

【請求項5】 上記請求項1ないし4に記載のあごひも用後部掛け具本体の左右の開口部に、ヘルメットの左右のあごひもを各々挿入したことを特徴とするあごひも用後部掛け具を取り付けたヘルメット。

【請求項6】 上記請求項3に記載のあごひも用後部掛け具本体に設けたスライด์片または保持片を、ヘルメットの後部内側に取り付けられたことを特徴とする請求項5に記載のあごひも用後部掛け具を取り付けたヘルメット。

【請求項7】 上記スライด์片をヘルメットの後部に設けた後に回転自在に取り付けて、上記あごひも用後部掛け具本体をヘルメット内に収納可能にしたことを特徴とする請求項6に記載のあごひも用後部掛け具を取り付けたヘルメット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、例えば安全帽、保安帽、保護帽などのヘルメットのあごひもを後部で収束するいは調整可能なあごひも用後部掛け具およびこれを取付けたヘルメットに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、安全帽等のあごひもは、図5に示すように、本体1の両縁部に適宜間隔を空けて設けた複数の縁2のうち、両側縁部に位置する2個の縁2を左右の耳部テープ3aをそれぞれ手状に取り付け、各々左右の耳部テープ3bの下方縁部をあご部テープ3cを介して連結していた。なお、上記耳部テープ3aとあご部テープ3bをそれぞれ「あごひも3」と言う。また、該あご部テープ3bは2本に分割されており、それぞれ上記左右の耳部テープ3aの下部に取り付けられており、相互に結索あるいは起ち結具（図示せず）により連結するようになっている。特に連結具により連結する場合には、少なくとも一方のあご部テープは長巻可能になっている。本発明のあごひもは、上記構成に倣うものではない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上記従来のヘルメットは、次のような解決すべき課題を有している。

- 1) 図5から明らかなように、左右の耳部テープ3aは着用者の耳に密着するため、不快な着感があった。
- 2) あご部テープ3bは図7の下の一地点でしか当たらないため、ヘルメットを固定して頭部に固定し難く、不安定な装着感があった。

【0004】 本発明は、上記従来の課題を解決するためになされたもので、その目的とするところは、後述で表した着感等を有して装着できるあごひも用後部掛け具およびこれを取付けたヘルメットを提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明のあごひも用後部掛け具は、ヘルメットの左右のあごひもを各々調整するための開口を形成したあごひも用後部掛け具本体から成ることを特徴とする。該あごひも用後部掛け具本体は、あごひもを差し込みて上記あごひも開口に調整するための差込用切込みを形成して、あごひもを掛け止める作業を容易とする。ヘルメットの後部内側に取り付けられるための2本のスライด์片または保持片を、上記あごひも用後部掛け具本体に一体的に設けたことも特徴とする。該スライด์片には嵌合を形成する。

【0006】 また、本発明のあごひも用後部掛け具を取付けたヘルメットは、上記あごひも用後部掛け具本体の左右の開口部に、ヘルメットの左右のあごひもを各々挿入したことを特徴とする。また、上記あごひも用後部掛け具本体に設けたスライด์片または保持片を、ヘルメットの後部内側に取り付けられたことを特徴とする。さらに、上記スライด์片をヘルメットの後部に設けた後に自動自在に取り付けて、上記あごひも用後部掛け具本体をヘルメット内に収納可能にしたことも特徴とする。

【0007】

【発明の実施形態】 以下、本発明の実施形態について図面を参照しながら説明する。図1は、本発明のあごひも用後部掛け具の一例的形態を示すものであり、4はポリウレタン、シリコン等のプラスチックから成る板状の後部掛け具本体であって、その左右にシリコン状の両側片4aが形成されている。これら左右の両側片4aは、相互に逆方向に配向するものが好ましい。

【0008】 4aは差込用切込みであって、これを弾性部材に押し開いて、あごひもを差し込みながら上記あごひも開口4a内に挿入するようになっている。上記後部掛け具本体4の材料はプラスチックに限らず金属等いずれの材料でもよい。後部掛け具本体4が樹脂等で形成されている場合には、上記差込用切込み4aはあごひもの係止に係り相当する幅のアリット状に形成して差し込み易いように形成するのが好ましい。なお、上記差込用切込み4aは、必ずしも設けなくてもよい。

(9)

図面 1.9-8.8.414

【0009】上記後部掛け具本体4には、2本のスライド片5が一体的に設けられている。本実施例では、後部掛け具本体4とスライド片5は一体成形により形成されており、それらの後部掛け具本体4とスライド片5は、スライド片5が後部掛け具本体4に対して前後方向に移動し易いように形成されている。またスライド片5は長さ5aが形成されており、後述するように、ヘルメットの顔面部分に貼り付けられるようになっている。なお、本実施例では、上記後部掛け具本体4に上記初期を形成するスライド片5が形成されている。

【0010】次に、上記実施例のあてひも用後部掛け具を取り付けたヘルメットについて、図2を参照しながら説明する。図2（B）からも明らかなように、図1の後面部分に設けられている2つの突起2a、突起2bがスライド片5を取り付けられる。

【0011】また、上記後部掛け具本体4のひも係合部aを、あてひも用前部テープ3aを前部用切込み部から差し込んで挿入する。なお、図2（B）において、後部掛け具本体4、ヘルメットおよびヘルメットの顔面部分と、それらと一体となったスライド片5が顔面に沿って前後方向に移動し、顔面部分に設けられた突起2aを係合部a内に嵌め込むことができる。また、後部掛け具本体4をスライド片5から成るあてひも用後部掛け具に取り付け、あてひも3をヘルメットの顔面部分に貼り付けるように構成したので、図2（B）より、後部掛け具本体4の突起2aが上記後部掛け具本体4により前方に引き出されて、顔面部分の突起2aと係合する。また、前部掛け具本体4が顔面部分に当接するので、ヘルメットを安定して装着することができる。図2（B）より、ヘルメットが取り付けられることがわかる。さらに、上記後部掛け具本体4により、左右のあてひもを顔面部分に貼り付けることができる。図2（B）より、顔面部分に貼り付けられることがわかる。

【0012】本実施例のヘルメットは、後部掛け具本体4とスライド片5から成るあてひも用後部掛け具に取り付け、あてひも3をヘルメットの顔面部分に貼り付けるように構成したので、図2（B）より、後部掛け具本体4の突起2aが上記後部掛け具本体4により前方に引き出されて、顔面部分の突起2aと係合する。また、前部掛け具本体4が顔面部分に当接するので、ヘルメットを安定して装着することができる。図2（B）より、ヘルメットが取り付けられることがわかる。さらに、上記後部掛け具本体4により、左右のあてひもを顔面部分に貼り付けることができる。図2（B）より、顔面部分に貼り付けられることがわかる。

【0013】図2（B）より、あてひも用後部掛け具本体4の突起2aが上記後部掛け具本体4により前方に引き出されて、顔面部分の突起2aと係合する。また、前部掛け具本体4が顔面部分に当接するので、ヘルメットを安定して装着することができる。図2（B）より、ヘルメットが取り付けられることがわかる。さらに、上記後部掛け具本体4により、左右のあてひもを顔面部分に貼り付けることができる。図2（B）より、顔面部分に貼り付けられることがわかる。

【0014】上記実施例では、あてひも3の左右の突起2a、突起2bが、後部掛け具本体4の2つの突起2a、突起2bと係合するように構成されている。また、図2（B）より、顔面部分に貼り付けられることがわかる。図2（B）より、顔面部分に貼り付けられることがわかる。

【0015】

【図1の図面】1）後部掛け具本体4により、左右のあてひも3をヘルメットの顔面部分に貼り付けるように構成したので、図2（B）より、顔面部分に貼り付けられることがわかる。図2（B）より、顔面部分に貼り付けられることがわかる。

2）後部掛け具本体4により、左右のあてひも3をヘルメットの顔面部分に貼り付けるように構成したので、図2（B）より、顔面部分に貼り付けられることがわかる。図2（B）より、顔面部分に貼り付けられることがわかる。

3）後部掛け具本体4とスライド片5を一体に形成したので、後部掛け具本体4をヘルメット内に組み込むことができる。図2（B）より、顔面部分に貼り付けられることがわかる。図2（B）より、顔面部分に貼り付けられることがわかる。

【図2の図面】

【図1】本実施例のあてひも用後部掛け具の一実施例を示す正面図である。

【図2】図1のあてひも用後部掛け具を取り付けたヘルメットを用いた状態の側面図（A）および図2（B）より、顔面部分に貼り付けられることがわかる。図2（B）より、顔面部分に貼り付けられることがわかる。

【図3】図1のあてひも用後部掛け具を取り付けたヘルメットを用いた状態の側面図である。

【図4】あてひも用後部掛け具の別の実施例を示す側面図である。

【図5】従来のヘルメットの説明図である。

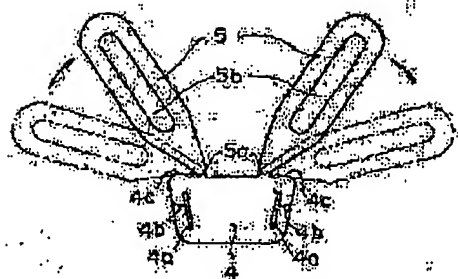
【図6の図面】

- 1 本体
- 2 突起
- 3 あてひも
- 3a 前部テープ
- 3b 後部テープ
- 4 後部掛け具本体
- 4a ひも係合部
- 4b 突起部
- 5 スライド片
- 5a 突起部
- 5b 突起部
- 6 セン
- 7 突起部
- 8 突起部
- 9 あて

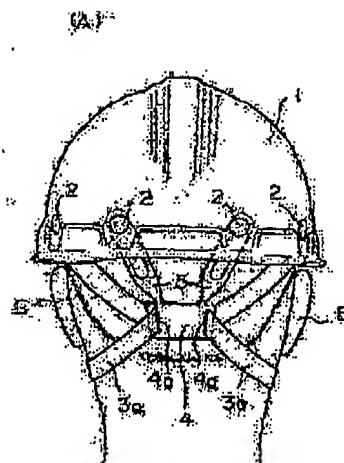
(c)

特許第1-0-8-8-4-4

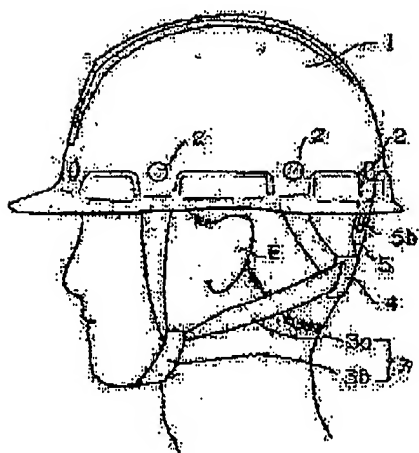
[図1]



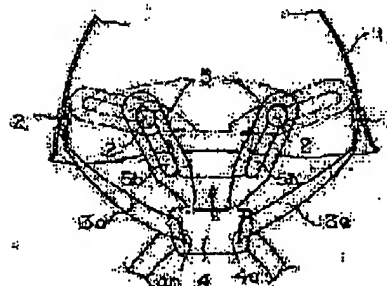
[図2]



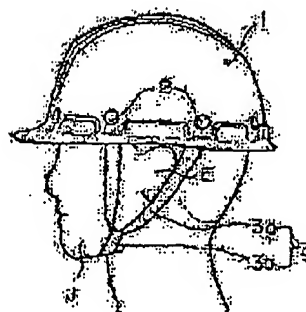
[図3]



[図4]



[図5]



439

Figure 10-03414

FIG. 4

